

# 竹田陽一の経営随筆集

2022年12月13日 第42号



## 事業承継で最も重要なものは何か

### 1. 人類が言葉を積極的に使うようになったのは250万年前から

人類はおよそ700万年ほど前にゴリラと分かれ、500万年ほど前にはチンパンジーと分かれたとされています。

そのご人類が2足歩行を始めたことで、両手が自由に使えるようになりました。両手が自由に使えるようになるといういろいろなことができるので、これによって飛躍的に進化をしています。

さらにそのご言葉を使い、子供や仲間と意志の伝達を始めたことで、進化が一段と進んだとみられています。

ゴリラやチンパンジーが、生きていくのに欠かせない重要な知識を身につけるのは、100%親の行動の観察に頼っています。

これはとても重要です。

しかし言語学者は、簡単な道具であれば子供が親の行動を観察することによって「マネ」することはできたとしても、観察だけでは、棒の先をとがらせて槍を作ったり、あるいは石器や弓矢など、レベルが高い用途の道具を作ることは、できないと言っています。

これらの理由によって、人類が飛躍的に進化したもう1つの原因として、「複雑な言語」を使うようになったことがあげられています。

では人類は、いつ頃から複雑な言葉を使うようになったのでしょうか。

これは解っていませんでしたが化石の研究によって、およそ150万年位というのがはっきりしてきました。

人の脳は「空豆のサヤ」というか、人の指位の大きさの脳がいくつも並んでできています。

そして1つ1つの空豆のサヤが、それぞれ「重要な役目」を専門に担当しています。

その1つに、「ブローカ野」と呼ばれるものがあり、これは「言葉を専門」に担当しています。

ブローカ野が発達するとこの脳の「部位」が大きくなるので、これが頭の骨を「へこませる」原因となります。

そこで化石を詳しく調べると、ブローカ野が発達していった過程と、その「年代」が解るそうです。

これらによって、人数が言葉を使って家族や仲間と、活発にコミュニケーションをするようになったのは、150万年位前からということが解ったのです。

### 2. 事業承継で最も重要なものは経営戦略の伝達にある

社長の高齢化が進んだことで、事業の承継が話題になっています。

創業者が、資金もなければ人脈もお客もないなど、「ないないづくし」の中で経営を初め、苦労して育てた会社を子供に渡すときに、よく言われるのが「親の後ろ姿が何よりの教育になる」というものです。

確かに、後ろ姿で経営のやり方を伝えるのは大事になります。

しかし創業社長が長い間に経験したものを、「後ろ姿だけ」で子どもに伝えるのは、ごく一部に限られます。

しかも「質」は、その内容のレベルが高くなれば高くなるに従って「見えなくなる」という、とても皮肉な性質を持っているので、経営をする上で特別重要になることを後ろ姿で伝えることはできないでしょう。

このような事情がある中、創業社長が長い間に経験したものを子供にきちんと伝えるには、やはり文章にまとめる必要があります。

もちろん文章を書くのが得意でない人がこうするには、何カ月もかかるでしょう。

しかしこうすることが、財産の相続よりもはるかに価値があるので、何カ月かかってもこうすべきです。

こうして後継者に伝えるべき大事なものがまとまったら、これを録音スタジオでナレーターに録音してもらい、録音教材としてCDに納めます。

こうすると後継者は何回も学習することができるので、創業者の経営に対する心構えや経営戦略が、後継者に伝わる率がグンと高くなります。

なるほど、では「この方法に挑戦してみるか」と考える人は、お知らせください。アドバイスします。

これに役立つCDは、「成功する事業承継の戦略」になります。CD 2巻。2時間17分。テキスト付。定価 19,800 円（税込）  
<https://www.lanchest.com/b-16/>

*Lanchester*

ランチェスター経営（株）



〒810-0012 福岡市中央区白金 1-1-8 チュリス薬院 301

TEL 092-535-3311 FAX 092-535-3200

メールアドレス customer@lanchest.co.jp HP <https://www.lanchest.com>